

あたたかく包まれて、ゆっくり読書の冬時間。

吉備国際大学附属図書館

図書館だより

KIU Library News



先生の推し本のご紹介

先生がどんな本に感銘を受け、影響を受けたのか。

ぜひ実際に手に取って読み、みなさん自身でその魅力を感じ取ってください。



経営社会学科

大西正泰先生 の 推し本



『ゆるストイック

-ノイズに邪魔されず1日を積み上げる思考』

佐藤航陽/著 ダイヤモンド社

2号館図書館所蔵 (159/Sa)

若い世代と私たちの世代の両方が、実によく似た内容の本を書きました。佐藤航陽さん『ゆるストイック』と、山口周さん『人生の経営戦略』(ともにダイヤモンド社)。はっきりと言えば、STP戦略(市場を分類し、ターゲットを決めて、自分の立つポジションを決める)のような会社の経営戦略を人生にも置き換えて考えてみたら、結構わかりやすいよ、という本。YouTubeの動画にも二人の対談があるので、ぜひどうぞ。



私たちのような昭和世代は、右肩上がりで、頑張れば結果がついてくるし、ほしいものがあった世代です。しかし、今や大抵のものがすぐに手に入るし、生きづらいぐらいなら「頑張らなくていい」。けれども、それも正直生きにくい。我々昭和世代も含め、どうやらこのままでは変化の激しい時代を生き抜けないかも。ならどうしたらいいの、というのを書いている本です。今回「ゆるストイック」がとても読みやすいので、紹介します。特に就職活動を控える3年生から4年生あたりに。これらの本の共通項は、「(今までの無意識の前提となっていた)考えを捨てよう」というメッセージです。そこから、方法論としての「ゆるストイック」や「人生の経営戦略」について2冊の本では書かれています。が、要は、“自分なりにカスタマイズした、自分を育てる方法を持ちましょう”という話です。皆さんには、“自分という主人公を育てる物語”を考えていますか? 考えてないなら、まだチャンスです。とにかく、本を嗜み締めましょ。

Winter 2026

Special Issue

Topic.....

令和7年度先生の推し本のご紹介

先生方が学生のみなさんにオススメしたい本をご紹介します。

※掲載の書影は出版社より許諾を受けたもののみ使用しております。転載・転用等は、ご遠慮ください。



経営社会学科の大西正泰先生は、こちらの4冊もオススメしてくれました！



『チ。 - 地球の運動について - 第Q集』 公式トリビュートブック

魚豊[ほか]／著 小学館 2号館図書館所蔵 (726.101/Uo)

あの話題の例のマンガである。タイトルの「チ。」だけでも、地球の地をはじめ、血、知、智、値ととても謎めいている。そんなに簡単に答えに辿り着くなんてさせない。主人公が複数いるようで、天動説や地動説そのもの、いや「信念」が主人公なのかも知れない。まだ20代の若い作者で、哲学科出身の「魚豊」さん。鱧（はも）と読ませたいのか、何なのかわからない（うおとが正解）が、とにかく、いろんな人が読んでの感想文を並べたのがこの本です。謎めいたあのマンガをどのように作者が考え、どのように感想を持ったのか。漫画家、音楽家、小説家、詩人、芸人、声優、学芸員、哲学者、宇宙飛行士。。私は、又吉直樹（ピース）さんの対談が良かった。完結したマンガの後に、ぜひじっくり読んでほしい。全部読む必要はないので、好きな感想文だけ読むと、とってもいい読後感が得られますよ。



『戦国小町苦労譚 <1> 邂逅の刻』

夾竹桃/著 アース・スターエンターテインメント

大人になって嬉しいことの一つが「大人買い」である。好きなものを誰にも止められず、「勢いで買える」喜び。大人の特権である。この特権を思い存分振り回せる一つが「マンガの購入」である。歴史好きな女子高校生がタイムスリップして戦国時代にいき、織田信長の懐刀として活躍するというストーリーで、大人買いに値しないと思ったかも知れない。が、歴史好きな人であれば、文句なしに面白い。ストーリー展開の良さ、主人公静子の魅力は

もちろんのこと、信長や濃姫など、それぞれのキャラが生きている。さらにマンガ「Dr.ストーン」顔負けの「ネタ」が満載である。読んで勉強になる、そう書くと読まないか（笑）。コミック版もあるのでそちらでも良いが、ぜひ小説版を読んでほしい。

『負債と信用の人類学 -人間経済の現在-』

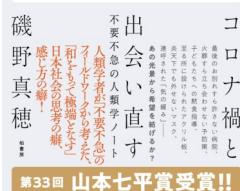
佐久間寛/編 箕曲在弘[ほか]/著 以文社 2号館図書館所蔵 (331/Sa)



たまには研究に関する本も紹介したい。2020年に急逝した文化人類学者デヴィッド・グレーバー。ここ最近ずっと読んでいる人。とにかく、本は難しい。けど、彼の疑問はシンプル。「どうして、こんなに豊かになってるはずの世界でみんな幸せじゃないの？」お金の貸し借りやお金をたくさん持っていることが最大に評価される。けど、それっておかしくないかというのを5000年遡る。グレーバーは、そもそも社会の成り立ちを社会契約論みたいなフィクションで片付けるのではなく、今も脈々と存在する部族社会にもみられる「贈与」（相手にプレゼントする）から紐解き直す。歴史を振り返ってみても、当初は持ちつ持たれつ。貸し借りを“あえて返さない”ことで相互の信用が成り立っていた。しかし、貸し借りが貨幣という形で計量化され、我々は返すまでは逃げられなくなった。そして、返さないことが信用を生むのではなく、悪（負債）となった。そのことを『負債論』という分厚い本で論じた。こんな分厚い本をみんなにお勧めするのは酷なので（笑）、グレーバーの主張をみんなでわかりやすく論じたのが、この『負債と信用の人類学』。これも分厚いけど、この本を読んで、大まかなグレーバーの考え方を知ってほしい。特に、西欧でも見られない特殊な「個人主義」に発展してきたイマドキの論理は、どうも眉唾かも知れないと思える好著。私がやっている“フリーコーヒーの意図”もわかると思いますよ。

『コロナ禍と出会い直す -不要不急の人類学ノート-』

磯野真穂/著 柏書房 2号館図書館所蔵 (498.6/Is)



第33回 山本七平賞受賞!!

2024年12月31日。私は脳内出血になり、右半身麻痺で、言葉が喋られなくなり、救急車で搬送された。救急車に乗せてもらひながら、麻痺すると最後の言葉さえ家族に言えずじまいと終わるんだなと痛感した。そういえば、コロナの時。感染拡大の防止のため、最後のお別れすら許さなかった病院。これは死ぬ方も看取る方も耐えられない事実だろうなと感じた。なんで一人で死ななあかんのか。他にもコロナの時には、子どもたちへの黙食指導もあった。アクリル板とマスクだらけになったあの「コロナ時代」。そんな一連のコロナ対策に見られた「日本ならではの行動」について、運動生理学を学んだのに、文化人類学が面白くて転向してしまった磯野先生が、日常に潜む、言語化されてないけれど私たちを縛るものについて、とても読みやすいタッチで書いている。読みやすいので、ぜひ医療系の方にお勧めしたい。



外国人科



高木秀明先生 の 推し本

『となりの史学 -戦前の日本と世界-』

加藤陽子/著 モリナガヨウ/絵 毎日新聞出版 岡山キャンパス図書館所蔵 (210.6/Ka)



ひと月で何とか読破しました。今年（2025年）は、昭和100年、戦後80年になり、ふりかえりのドキュメンタリーあるいはドラマをテレビで視聴し、新聞・雑誌記事で読む機会がありました。

本書は、連載物をまとめて、さらにイラストを入れて制作されたようです。ちょうどゼミをやっているような感じで読んでいけました（文体もそういう書き方です。）。適宜、参考文献や資料が提示されているので、事実確認もできるようになっています。



『英語解剖図鑑』

原島宏至/著 KADOKAWA
岡山キャンパス図書館所蔵 (834/Ha)

高木による暇つぶし第二弾です。英語各種試験の点数があがることは保証できません。ご承知のとおり図鑑なので、最初から読む必要はありません。ただし、プロローグと本書の表記については

読んでからスタートとしたほうがいいです。図鑑ですがイラストが豊富です。英単語の語源が分かりやすい、その単語のつながりというか広がりがアップし、理解した単語数が増えるでしょう。ネタバレになりますが、ラテン語に关心を持つかもしれません。



能登智彦先生の推し本

『プラハの春』上・下巻

春江一也/著 集英社文庫 岡山キャンパス図書館所蔵 (913.6/Ha/1・2)



いまの若い方々に「チェコスロバキア」と言っても、ピンとこないだろう。そして、すでに消えたその国であった民主化運動「プラハの春」(1968年)は、日本では遠い出来事だろう。

当時、真実を語る権利があると声を上げた市民を、社会主义体制下に置いていたソ連が軍事で押さえ込んだ。東西冷戦はもはや過去のものになった。だが、現在のロシアのウクライナ侵攻を考えれば、東西冷戦の根っこは現在も変わっていないように思える。だからこそこの一冊は、いまも貴重である。

物語の筆者は、当時プラハに実際に居合わせた日本の外交官で、激動の史実を元に壮大な恋愛小説として仕立てた。ロマンスの行方にはらはらドキドキしながらページが進む。いつの間にか歴史の流れも頭に入ってくる。

「それにしても美しい。プラハはなぜこんなに美しいのか！」（下巻：p43）本書にはこんな一節がある。プラハに何度か立ち寄った私も、それを常に実感した。単なる景色ではない。悲しみを隅々に内包し、歴史が重厚に織りなす美といえる。プラハを描写したスマタナの交響詩「わが祖国」の壮大な音色も心を流れる。

この本を、そしてこの地を、ぜひ味わっていただければと願っています。



『自由』上・下巻

アンゲラ・メルケル/著 長谷川圭・柴田さとみ訳 KADOKAWA
岡山キャンパス図書館所蔵 (289.3/Me/1・2)

4時間以上に及ぶ記者会見は、世界中でもそうあるわけではないのだが、ドイツ首相当時(2005~21年)のアンゲラ・メルケル氏は内外の報道陣とたびたび向き合った。「何でも質問してください」とフラットな態度で議論した。EU、安全保障、ナチスとの決別、東西分裂……。特に移動や言論の自由について話題が及ぶとスイッチが入った。メルケル氏が頻繁に「Freiheit（独語の「自由」）と発する声は力強く、私の記憶から離れない。回顧録のタイトルが「自由」と知り、日本での発売と同時に本屋に走った。



メルケル氏は旧東ドイツで育った。国家保安省（シュタージ、いわゆる秘密警察）の監視は広範囲に及び、あちこちにある盗聴器や隠しカメラにおびえ、家族ともひそひそとしか会話できなかったという。とりわけ戦後、自由を十分に保証された日本では、権力による抑圧のイメージがあまりわからない。だが圧制下に身を置いたメルケル氏には自由は尊いものだった。ベルリンの壁が崩壊し、民主主義を出発させるために物理学者から政治家に転身する。自由を持つ権利は人間の最も重要な権利であるという信念を貫いた。首相就任後は難民の大量受け入れに応じる政策などの根底を支え、彼女を大政治家たらしめたと私は思う。

個々の政策判断に対する批判は少なくないが、不寛容な世界にあって対話を一貫して求め、プーチン氏、トランプ氏、習近平氏らと向き合った姿勢は光る。その意味で、混迷の度が加速する世界の舞台裏を垣間見る、本著は手がかりの一つになるだろう。

厚い本ですが、ぜひ手に取っていただければと願っています。



スポーツ社会学科



倉知典弘先生 の 推し本

『多文化共生の実験室-大阪から考える』

高谷幸/著 青弓社 2号館図書館所蔵 (334.41/Ta)

グローバル化が進み、多様な背景を持った人たちが日本で生活するようになる中で「多文化共生」という言葉が幅広く使われるようになりました。しかし、ともすれば多文化共生は外国籍の人への日本語教育やいわゆる日本人への他の国の人との食べ物・服装・イベント等についての理解促進など表面的なものにとどまりがちです。では、どうすればよいのでしょうか。

この本は、大阪における実践をやや専門的にではありますが紹介してくれる書籍です。大阪は古くから在日コリアンへの教育などを通じて多文化共生に取り組んできた地域です。ここでの実践から現在の多文化共生のあり方を問う視点を身につけてもらえればと思います。



外国学科



畠伊智朗先生 の 推し本

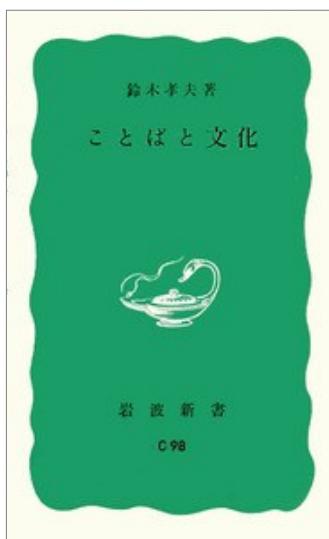
『ことばと文化』 鈴木孝夫/著 岩波新書 2号館図書館所蔵 (I-C98)



鈴木孝夫先生の本は、大学生の時に読むべきだ。特に、この『ことばと文化』はおすすめだ。この本は、1973年に出版されたもので、70年代、80年代、90年代に大学生だったたちは、大学教員から「読め」とすすめられた本に違いない。この私も、学生時代、複数の先生から「読め」と言われ読んだ。1日で一気に読んだ記憶がある。おもしろい！そして、外国学科専門科目「日本論」で教えていただいている飛島章先生の授業に触発され、今回、読み返しました。あいかわらず、おもしろい！

この本を読むと、ことばを研究するおもしろさ、楽しさが分かる。色やモノ、動物を示すことばがどこに行ってもあるが、文化によって、その意味する範囲が異なる。だからこそ、単語帳的な英単語の暗記は危険だ。文化背景やコンテキストで意味を判断しないといけない。読んでいくと、筆者の鈴木先生が英和辞書、英英辞書などをテーブルに数多く並べ、比較検討されている姿が目に浮かぶ。虹色は7色か？日本はそうかもしれないが、私が留学した米国ペンシルベニア州の高校では、虹は6色と言っていた。物理の先生が、物理学的には7色と言われるが、Indigoという色の認識がなく、この生徒は6色だと思っているし、教える先生もそのように思っている、と解説してくれた。大学生の時にその本を読んだ際、そのことが生き生きとよみがえた。また、欧米語の文法と同様、日本語文法にも、一人称、二人称がある。欧米語の文法を基本に日本語の文法をつくったからだ。欧米語の一人称、二人称は極めて限定的である。日本語には、一人称がたくさんある。二人称も多い。なぜだろう？ぜひ、この本を読んで、欧米語の文法の枠にはまり切れない日本語とそれの土台となる日本文化のダイナミズムを味わってもらいたい。

専攻を問わず、大学時代に読んでもらいたい。関心があれば、鈴木先生の『日本語と外国语』岩波新書、金谷武洋(2018)『日本語が世界を平和にするこれだけの理由』飛鳥新社などを読み進めてください。Enjoy reading ! Have fun !





外国学科の**畠伊智朗**先生は、こちらの6冊もオススメしてくれました！



『雨雲の集まるとき』

ベッシー・ヘッド著 横山仁美訳 雨雲出版 岡山キャンパス図書館所蔵 (933.7/He)

この本は、アフリカに関するすべての人に読んでもらいたい。初版が1969年で、いまだに出版・販売がなされている。これまで、ベッシー・ヘッドの著作はいくつか翻訳はされてきているが、このWhen Rain Clouds Gatherは日本語訳されてこなかった。開発コンサルタントでアフリカ地域研究者でもある横山仁美さんが、20年近くかけ翻訳したものである。大学生時代に指導教官から卒業研究の対象とするよう示唆を受けたとのこと。出版社がどこも引き受けてくれなかつたので、横山さんは雨雲出版という出版社を設立して、翻訳本を世に問うた。

時代は、南アフリカがまだアパルトヘイト体制を敷いていた1950年代か。当時は、ボツワナは英國の植民地であった。ひとりの南アフリカの若者マカヤが国境のフェンスを越え、ボツワナ植民地に不法入国する。そのスリルを描くところからこの小説は始まる。

ホレマ・ミディという村に、マカヤが落ち着き、英國の青年ギルバートがNGO活動の一環として取り組んでいた農業・農村開発プロジェクトを手伝うことになる。このプロジェクトは、地元の有力者であるチーフなどに妨害を受けるが、うまく難を逃れてきた。牧畜を主要産業とする村にとって、牛の販売以外には現金獲得収入がなかった。その意味で、現金収入を得られる開発プロジェクトは魅力的なはずであったが、賛同者が増えない。村の長老やマカヤのお陰で、プロジェクトは軌道にのる。そこに、干ばつが襲う。バタバタ死んでいく牛、それに群がるハゲタカなど。アフリカの現実を見せつけられる。追いか打ちをかけるように、プロジェクトで成功している住民たちを見てジェラシーを感じていたチーフが、子どもを失い悲しみに暮れている女性を裁判にかけるという、、驚きの結果が待ち受ける。そいて、愛情あふれる、ほのぼのさで締めくくられる。

この小説の舞台はボツワナという国で、当時は貧困にあえぐ国であったが、現在は資源に恵まれた比較的豊かな国になっている。多くの貧しい住民がいる中で、住民からの小作料などをもとに、豊かな生活を満喫しているパラマウント・チーフとその関係者。そのような中で、開発支援をする難しさ、外部者であるからこそできることなどが分かる。貧しい人たちの考え方、喜び、権力などには逆らえない虚しさ、無力感などが赤裸々に記述されている。村のうわさはどのように広まるのか、いつまで続くのかなど。著者のベッシー・ヘッドの経験が下敷きにある。アフリカの国を訪れる前には読んでおきたい一冊である。



『成瀬は都を駆け抜ける』

宮島未奈／著 新潮社 2号館図書館所蔵 (913.6/Mi)

作者の宮島未奈さんは、読者を裏切らない。奇想天外な展開で、読者はぐいぐいストーリーに引き込まれて、最後まで読み切ってしまう。宮島さんの『成瀬は天下を取りにいく』とその続編『成瀬は信じた道をいく』があり、本書は「成瀬あかり」シリーズの第3作目にあたる。気分転換が必要な時、ちょっとした時間がある時、読んでみてください。電車を待つホームで、また、電車の中で読んでみてください。抱腹絶倒、間違いないし！

本書『成瀬は都を駆け抜ける』では、京都大学1回生となった主人公成瀬あかりが、「わたしはこれから京都を極めたいと思っている」とことばどおり、成瀬が京都の名所100ヶ所を、奇想天外な発言と行動で制覇していく。その模様を、大学の友人や母親など6名の目で描かれ、ストーリーが展開する。6人目は、前2作にも登場している幼馴染の島崎みゆきである。

これを読んで、「わたしはこれから高梁を極めたいと思っている」とか、「わたしはこれから岡山を極めたいと思っている」「わたしはこれからあわじを極めたいと思っている」と宣言する、熱血学生が出てくることを期待したい。

『碧空のカノン』 / 『群青のカノン』 / 『薰風のカノン』

福田和代／著 光文社 2号館図書館所蔵 (913.6/Fu/1-3)



おもしろすぎて、最後まで読み切ってしまうラブコメ3部作です。勉強に疲れた時、読んでみてください。電車を待つホームで、また、電車の中で読んでみてください。何か不思議な清涼感を味わえます。

著者の福田和代さんは、クライシス・ノベルを得意とする人なので、この3部作には、「航空自衛隊航空中央音楽隊ノート」と副題がついているが、それなりにスリリングなものではないだろうかという期待のもとに読み始めると、その期待は裏切られる。音楽隊でアルトサックスを担当する鳴瀬佳音（なるせ・かのん）三等空曹（三曹）が練習、任務としての演奏会、そして普段の生活において、数々の不思議な事件に遭遇し、仲間とともに解決していく。音楽隊の中の人間関係、人間模様の描写がうまい。キャラクターの設定は微に入り技を感じる。後半は、事件の謎を解決しながら、佳音とは高校時代からの腐れ縁の関係にある渡会俊彦（わたらい・としひこ）三曹、別名「ゴリラ」との恋の行方が中心となる。

主人公の名前は佳音（かのん）ですが、題名にはカノンとなっている。カノンは音楽の演奏様式のひとつであるが、軍事用語では、大砲や機関銃を指す言葉です。名前—演奏様式—武器（装備品）の「ことば遊び」でもある。

3部作合計、約900ページですが、あっという間に読み終えること請け合いです。Enjoy reading !



『それいけ！平安部』

宮島未奈／著 小学館 2号館図書館所蔵 (913.6/Mi)



作者の宮島未奈さんは、読者を裏切らない。奇想天外な展開で、読者はぐいぐいストーリーに引き込まれて、最後まで読み切ってしまう。宮島さんの小説に『成瀬は天下を取りにいく』とその続編がありますが、ストーリー展開はよく似ている。気分転換が必要な時、ちょっとした時間がある時、読んでみてください。電車を待つホームで、また、電車の中で読んでみてください。

『成瀬は天下を取りにいく』では、高校生の成瀬あかりの奇想天外な行動を幼馴染の島崎みゆきの目で描かれ、ストーリーが展開する。この『それいけ！平安部』では、平安部の設立発起人である菅原高校1年生の平尾安以加（ひらお あいか）が主人公ではある。が、安以加と共に、部員募集などに取り組み平安部を盛り立てた、

同じ学級の牧原栞（まきはら しおり）の目で、主人公の安以加と部員たちの発言、感情、行動などを描写しながらストーリーが展開する。1年生3人、2年生2人の5名の最低部員数で平安部は発足し、活動をする。活動目的は、「平安の心を学ぶ」ということがぼんやり決まっているだけで詳細は何も決まっていない。部員はユニークすぎる経歴を持っており、こだわりが強い。顧問の先生はやる気なし。普通であればすぐにも破綻するような部ですが、部活の一環でいろいろなことにチャレンジし、熱中していくうちに、部員間の信頼と絆が強くなっていく。走りながら考えている。部員は心配や不安を抱えながらも、すべてのことにポジティブに取り組み、アイディア・工夫を重ねていく。信頼と絆は部を超えて拡大していく。そして、平安部を菅原高校の名物部にしていく。青春の1ページ。清々しい。読んでいると元気になる。時間を戻すことができるのであれば、私自身が、高校生として平安部の部員のような経験と学びをしてみたかった、、、「いと、をかし」 Enjoy reading !



図書館は、知識の森。

吉備国際大学附属図書館

あなたの探しているものが、きっとある。

どこに何があるの？！



4館のご案内



高梁キャンバス 2号館図書館	高梁キャンバス 2号館ラーニングコモンズ	岡山キャンバス図書館	南あわじ志知キャンバス図書館
(和書) 心理・社会科学・保健医療・福祉・経済・法律・技術・芸術・美術・一般・教育関係 ※洋書はありません。	(和書・洋書) 心理・芸術・美術・アニメーション関係 2号館分野の洋書	(和書・洋書) 英語・社会科学関係	(和書・洋書) 農業・植物・園芸・醸造・発酵 水産関係
文庫本 新着雑誌 学術研究紀要	視聴覚資料 雑誌製本 雑誌のバックナンバー	視聴覚資料 新着雑誌・雑誌製本 絵本（洋書のみ）	視聴覚資料 新着雑誌 雑誌製本
 社会科学部・看護学部 人間科学部対応 ※令和5年度以前の心理関係図書は、2号館ラーニングコモンズに配架。	 アニメーション学部対応 ※令和5年度以前の心理関係の図書も配架しています。 ※洋書・雑誌類は全学部対応	 外国語学部対応	 農学部対応

図書館は、無限の空。

吉備国際大学附属図書館

図書館Q&A

みんなの疑問にお答えします！！

その他にも分からないことがあれば気軽にスタッフに聞いてね！

本はどうやって探すの？	雑誌は貸出できますか？	実習用に図書を借りたい！	なぜ貸出禁止の資料があるの？	読みたい本が図書館にない？！
図書の背ラベルの分類番号ごとに置く場所が分かれています。蔵書検索をして、背ラベルを確認してください。	雑誌は貸出できません。 著作権の範囲内でコピーできます。申込書を記入してカウンターで申し込んでください。	実習中の長期貸出は可能です。 (※本学学生に限る) 貸出の際に、実習期間の分かる資料を提示してください。	辞書や百科事典は、調査・研究の参考資料として多くの方が利用するため貸出禁止です。 館内閲覧は可能です。 ご利用ください。	学習や趣味のために必要な本をリクエストできます！！「学生リクエスト本記入票」をご記入の上、申し込みをしてください。 ※購入まで一ヵ月前後かかります。
貸出期間を延長したい！	開館日を知りたい！	課題をプリントアウトしたい！	ノートのコピーはできますか？	館内の温度を調節してほしい！
同じ本を続けて借りたいときは、学生証と延長希望の図書を持参すれば、継続貸出できます！継続貸出は2回までです。※予約されている図書は継続貸出できません。	図書館ホームページやユニバーサルバースポットにて、開館カレンダーを公開しています。 館内にも掲示しています。	課題のプリントアウトは、貸出用ノートPCを利用すれば、プリントアウト可能です。 ※コピー用紙は持参してください。 申込には学生証も必要です。	私物のコピーはできません。著作権法により、図書館内のコピーは、館内資料に限られます。プリント・ノート等の私物は館外のコピー機をご利用ください。	SDGsの取り組みの一環として夏は27°C、冬は20°Cの温度設定になります。ご協力よろしくお願ひいたします。
インターネットを利用したい！	DVDを鑑賞できますか？	飲食可能な場所はありますか？	ラーニングコモンズって何？	他大学の図書館を利用したい！
貸出用ノートPCはインターネットを利用できます。（※利用のためには個人のID・パスワードが必要です。）文献検索は、蔵書検索端末でも利用可能です。	2号館ラーニングコモンズ・岡山キャンバス図書館・南あわじ志知キャンバス図書館で、利用できます。平日9時～17時まで利用可能。申込は16時までにお願いします。申し込みには学生証が必要です。※持込資料は原則不可	2号館ラーニングコモンズでは軽食が可能です。 ○可能：ふた付き飲料・軽食・こぼれないもの ×禁止：箸やフォーク等を利用するもの・臭いが強いもの・汁物の食事	グループで話し合いをしながら、学修できるスペースです。もちろん個別学修もできます。視聴覚資料の利用や、軽食も可能です。ぜひご利用ください。	図書館によっては事前申し込みが必要な場合があるため、まずは、本学図書館カウンターまで申し出てください。（平日9時～17時）

ー奥付ー 図書館だより Special Issue 2026 2026.1.26発行 吉備国際大学附属図書館

図書館HP : <https://lib.jei.ac.jp/kiui/> 図書館カレンダーはHPにて公開中！

